

00862.023317

PATENT APPLICATION



IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Japanese Application of:
HIROMI IKEDA ET AL.)
Application No.: 10/705,859)
Filed: November 13, 2003)
For: IMAGE PROCESSING APPARATUS,
METHOD AND PROGRAM)
: January 26, 2004

Commissioner for Patents
P. O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

SUBMISSION OF PRIORITY DOCUMENT

Sir:

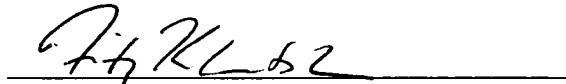
In support of Applicants' claim for priority under 35 U.S.C. § 119, enclosed is a certified copy of the following Japanese application:

2002-341259 filed November 25, 2002

Applicants' undersigned attorney may be reached in our New York office by

telephone at (212) 218-2100. All correspondence should continue to be directed to our address given below.

Respectfully submitted,



Attorney for Applicants

Registration No. 50,333

FITZPATRICK, CELLA, HARPER & SCINTO
30 Rockefeller Plaza
New York, New York 10112-3801
Facsimile: (212) 218-2200

10/105-859

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2002年11月25日
Date of Application:

出願番号 特願2002-341259
Application Number:

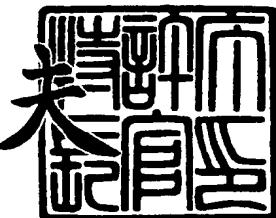
[ST. 10/C] : [JP 2002-341259]

出願人 キヤノン株式会社
Applicant(s):

2003年12月15日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康



【書類名】 特許願
【整理番号】 226130
【提出日】 平成14年11月25日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 G03G 15/00
【発明の名称】 画像処理装置
【請求項の数】 1
【発明者】
【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内
【氏名】 池田 裕美
【発明者】
【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内
【氏名】 廣田 誠
【発明者】
【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内
【氏名】 深田 俊明
【特許出願人】
【識別番号】 000001007
【氏名又は名称】 キヤノン株式会社
【代理人】
【識別番号】 100076428
【弁理士】
【氏名又は名称】 大塚 康徳
【電話番号】 03-5276-3241

【選任した代理人】**【識別番号】** 100112508**【弁理士】****【氏名又は名称】** 高柳 司郎**【電話番号】** 03-5276-3241**【選任した代理人】****【識別番号】** 100115071**【弁理士】****【氏名又は名称】** 大塚 康弘**【電話番号】** 03-5276-3241**【選任した代理人】****【識別番号】** 100116894**【弁理士】****【氏名又は名称】** 木村 秀二**【電話番号】** 03-5276-3241**【手数料の表示】****【予納台帳番号】** 003458**【納付金額】** 21,000円**【提出物件の目録】****【物件名】** 明細書 1**【物件名】** 図面 1**【物件名】** 要約書 1**【包括委任状番号】** 0102485**【プルーフの要否】** 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 画像処理装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 原稿画像を読み取り、設定情報に従って該原稿画像を処理することができる画像処理装置であって、

読み取られた原稿画像が、設定情報を記載した原稿であるか否かを、予め登録されたフォーマットに基づいて識別する識別手段と、

読み取られた原稿画像が、設定情報を記載した原稿であると識別した場合、該読み取られた原稿画像に記載された設定情報を設定する設定手段と
を備えることを特徴とする画像処理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は画像処理装置に関し、特に装置の設定を行う際のユーザビリティ向上に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来より、画像処理装置の分野においては、例えばコピー機能・ファクシミリ送受信機能・プリンタ機能など、様々な機能が統合された装置が開発され、便利になった一方で、装置における設定は複雑化し、ユーザにとっては面倒かつ難しいものとなる傾向にある。

【0003】

一方で、装置設定の複雑化を回避し、容易に設定を行うための方法が考案されており、例えば設定用の原稿画像を読み取ってその画像の情報から装置の設定を行う例が特開平8-102808号公報で開示されている。また、手書き文字や音声、バーコードから装置の設定を指示することにより装置の設定を行う例が特開平9-258943号公報で開示されている。

【0004】

【特許文献1】

特開平 8-102808号公報

【特許文献 2】

特開平 9-258943号公報

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら上記従来例は、いずれも装置が自動的に設定用紙を認識するものではなく、ある用紙が装置設定の指示であるということをユーザが設定用のボタンを押して指示するなど、ユーザは装置設定という段階を意識的に踏まなければならぬとい問題があった。

【0006】

本発明は、上記課題を鑑みてなされたものであり、画像処理装置における装置設定の利便性を向上させることを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】

上記の目的を達成するために本発明に係る画像処理装置は以下のような構成を備える。即ち、

原稿画像を読み取り、設定情報に従って該原稿画像を処理することが可能な画像処理装置であつて、

読み取られた原稿画像が、設定情報を記載した原稿であるか否かを、予め登録されたフォーマットに基づいて識別する識別手段と、

読み取られた原稿画像が、設定情報を記載した原稿であると識別した場合、該読み取られた原稿画像に記載された設定情報を設定する設定手段とを備える。

【0008】

【発明の実施の形態】

【第 1 の実施形態】

以下、本発明の実施形態に係る画像処理装置について添付図面を参照して説明する。

【0009】

図 1 は、本発明に係る画像処理装置の概略構成を示すブロック図である。図 1

において、101は例えばスピーカのような音声出力部で、音声メッセージ生成部105にて生成されたメッセージを出力する。音声メッセージ生成部105における音声メッセージの生成は特開平3-149600号公報で開示されているような音声合成方法等、公知の技術を用いる。102は例えばレーザビームプリンタやインクジェットプリンタ等のプリンタで、プリントインターフェース部106を介して接続されている。

【0010】

プリントインターフェース部106はプリンタ102の制御や外部機器との間のデータのインターフェース制御等を行う。103はスキャナで、スキャナインターフェース部107を介して接続されている。スキャナ103から読み込まれた画像データは、イメージバッファ111に蓄えられる。

【0011】

104はCPUボードで、システム全体の制御を行う機能を有している。108は例えばコンピュータ等の外部の機器と接続するための外部インターフェース部である。109はFAX（ファクシミリ）ボードで、通信回線に接続され、スキャナ103から読み込んだ画像データを通信回線を介して外部に送信したり、外部から送られてきた画像情報をプリンタ102で出力したりすることができる。

【0012】

110はOCRボードで、文字原稿を光学的に読み取ってその原稿に書かれていたりを認識する。このOCRボード110はマークシート等を読み取って認識し、情報処理を行うことができる。

【0013】

図2は、CPUボード104の構成を表す図であり、各構成はCPUバス207で接続されている。図2において、201はCPUで、システム全体の制御を行う。202はROMで、CPUボード104の制御プログラムや各種データが記憶されている。203はRAMで、制御プログラムを動作させるために必要な各種データ等を一時的に保存している。また、インターフェース部204は、CPUボード104とシステムバス112とを接続するためのインターフェース部である。

【0014】

205はパネル部で、ユーザへのメッセージ等を表示する。206は通信用RAMで、装置内の各ボードは、この通信用RAM206を介して情報のやり取りを行う。例えばCPU201がプリンタ102に情報を送るときは、通信用RAM206にリクエスト情報を書き込む。各ボードは一定時間おきにCPUボード104の通信用RAM206をチェックし、リクエスト情報が書き込まれていなかどうかを調べる。リクエスト情報が書き込まれていれば、それに応じた処理を行い、処理が終了したらその旨を通信用RAM206に書き込んでCPU201に通知する。

【0015】

図3～図9に本発明に係る画像処理装置の動作を示す図を示す。

【0016】

図3に、複写機の設定に使用される設定用紙の一例（301）を示す。この設定用紙301はマークシートでもよい。302はこの用紙（原稿）が設定用であるかどうかをチェックする欄であり、図4の402のようにこの欄がチェックされていればこの設定用紙401が設定を行うためのものであることを示す。

【0017】

一方で、図5の502のように、この欄がチェックされていなければ設定用紙501自体をコピーすることができる。このように設定用であるかどうかのチェック欄を設けることで、この用紙が設定用であるかどうかをユーザだけではなく機器自体が判別することが可能になる。

【0018】

続いて303は基準となる用紙が何枚目かを記入する欄である。ここで基準となる用紙とは、設定項目が空欄（未記入）の場合に適用される用紙である。例えば図9のように設定用紙を複数枚用いる場合、設定用紙の1枚目（図9：901）での設定に対し、設定用紙2枚目（図9：902）では、ユーザはその基準となる用紙を設定用紙の1枚目（図9：901）に設定し、その設定項目に対する変更分のみを記入するだけでよい。

【0019】

1枚目（図9：901、図4：401）の設定を図7のデータテーブル702に記憶しておき、2枚目（図9：902、図6：601）の設定をデータテーブル703に一時記憶する。このとき、空欄の項目については基準となる設定（データテーブル702）の情報と統合し、データテーブル704に記憶することも可能である。

【0020】

また、各項目においてデフォルト値を設定したリストを記憶しておき、1枚目の基準となる用紙としてそのデフォルト値のリストを指定することで、ユーザはデフォルト値に対する変更項目だけ記入すればよく、設定を簡単に行うことが可能になる。また、304は枚数、305は倍率、306は用紙、307はソータ、308は両面を設定するための記入欄である。

【0021】

図7に、データテーブル（701～706）を示す。各種設定用紙（図4では401）毎および各種設定項目（図4では402～408）毎にデータテーブルを作成し、各々のデータを格納する。701は設定用紙リストを格納するテーブル、702、704は設定用紙の各設定項目におけるデータを格納するテーブル、703は設定用紙の各設定項目におけるデータを一時格納しておくためのテーブル、705はソートに関する各設定値をあらかじめ格納しておくテーブル、706は両面印刷に関する各設定値をあらかじめ格納しておくテーブルである。OCR110で認識した結果に基づき、これらの結果をそれぞれのデータテーブルに格納する。

【0022】

本発明の第1の実施形態に係る画像処理装置における処理について説明する。図10に原稿画像を読み込み設定用紙であれば機器の設定を行うフローチャートを、複写機を例に示す。

【0023】

スタートボタンが押され処理が開始されると（ステップS1001）、原稿台に原稿用紙があれば（ステップS1002）原稿画像をスキャナ103で読み込み（ステップS1003）、OCR110に画像を送信する（ステップS1004

5）。原稿用紙がなければ終了する（ステップS1004）。OCR110にて認識した結果を受信したら（ステップS1006）その認識結果よりその原稿が装置設定用の原稿であるかどうかを判別する（ステップS1007）。

【0024】

装置設定用の原稿であるかどうかの判別は、まず、OCR110にて認識した結果の文字・記号・枠の位置や大きさから、所定フォーマットであるかどうかを判別する。この所定フォーマットはあらかじめ記憶しておく必要があり、ユーザがフォーマットを登録してもよい。その原稿が所定フォーマットであった場合、更に図3の302がチェックされているかどうかを調べる。このとき、図3の302がチェックされていればその原稿が装置設定を目的としていると認識する。

【0025】

その原稿が装置設定用の原稿でなければ（ステップS1007）、プリンタ部に画像を送信し（ステップS1008）、装置設定用の原稿であればステップS1009へと進む。設定項目のうち機器が動作する上で足りない項目がある場合は（ステップS1009）その項目をリストアップし（ステップS1010）、ない場合はステップS1011へと進む。ステップS1011では設定情報を記憶し、設定情報と、もし足りない項目がある場合はその情報を音声メッセージ生成部105に送信する（ステップS1012）。

【0026】

前述のように、音声メッセージの生成は特開平3-149600号公報で開示されているような音声合成方法等、公知の技術を用いる。音声出力が終了したら（ステップS1013）、装置設定が正しく行われているか確認を促し（ステップS1014）、確認されれば（ステップS1015）機器に設定を行う（ステップS1016）。

【0027】

設定が間違っていた場合や設定項目が不足している場合は、設定の訂正・補充（補正）を促し（ステップS1017）訂正・補充後（ステップS1018）ステップS1009へ戻る。ここで、上記音声メッセージでの確認は、パネル部（図2：205）に文字や記号を表示して行ってもよい。

【0028】

以上の説明から明らかなように、本実施形態によれば、その原稿が設定用紙かどうかをユーザが記入する欄を所定フォーマットに設けることにより、機器が設定用紙と原稿とを判別することが可能である。これにより、ユーザは設定を記入した用紙をコピー用原稿とともに原稿台にセットするという行為で簡単に機器の設定を行うことができる。

【0029】

また、設定を設定用紙に記入することで、その場（例えば複写機の前）で面倒な設定を行う必要はなくなり、あらかじめ設定を記入しておくことが可能である。設定用紙への記入は他の人に行ってもらってもよく、また設定用紙自体をコピーすることも可能なので、難しい設定を行う際の利便性が向上する。設定用紙は図8の801のように原稿の途中に含むことも可能である。設定用紙以前の原稿802については今までの設定、設定用紙以降の原稿803については設定用紙801にて設定した内容が有効となる。

【0030】

【第2の実施形態】

続いて、本発明に第2の実施形態に係る画像処理装置について説明する。上記第1の実施形態では1度にセットする原稿に含まれる設定用紙は1枚を前提にしたが、図9のように複数の設定用紙（901、902）を含むことも可能である。図11にその動作を行うフローチャートを、複写機を例に示す。

【0031】

スタートボタンが押され処理が開始されると（ステップS1101）、原稿台に原稿用紙があれば（ステップS1102）原稿画像をスキャナ103で読み込み（ステップS1103）、OCR110に画像を送信する（ステップS1105）。

【0032】

原稿用紙がなければ終了する（ステップS1104）。OCR110にて認識した結果を受信したら（ステップS1106）その認識結果よりその原稿が装置設定用の原稿であるかどうかを判別する（ステップS1107）。装置設定用の

原稿であるかどうかの判別は、まず、OCR110にて認識した結果の文字・記号・枠の位置や大きさから、所定フォーマットであるかどうかを判別する。

【0033】

この所定フォーマットはあらかじめ記憶しておく必要があり、ユーザがフォーマットを登録してもよい。その原稿が所定フォーマットであった場合、更に図3の302がチェックされているかどうかを調べる。このとき、図3の302がチェックされていればその原稿が装置設定を目的としていると認識する。

【0034】

その原稿が装置設定用の原稿でなければ（ステップS1107）プリンタ部に画像を送信し（ステップS1108）、装置設定用の原稿であればステップS1109へと進む。基準となる設定がある場合は（ステップS1109）その設定情報を読み込み（ステップS1110）、ない場合はdefaultの設定情報を探し（ステップS1111）。このdefaultの設定情報については、あらかじめユーザが値を設定しておくことも可能である。

【0035】

続いて、設定用の原稿画像から読み取った設定と、基準となる設定情報あるいはdefaultの設定情報を統合し（ステップS1112）、結果をデータテーブル（図7）に記憶する（ステップS1113）。

【0036】

上記情報の統合方法については、例えば設定用の原稿にて空欄だった部分を基準となる設定情報の値に設定するなどの方法が考えられるが、これに限定されるものではない。続いてステップS1114にて、設定された情報を音声メッセージ生成部105に送信する。

【0037】

前述のように、音声メッセージの生成は特開平3-149600号公報で開示されているような音声合成方法等、公知の技術を用いる。音声出力が終了したら（ステップS1115）、装置設定が正しく行われているか確認を促し（ステップS1116）、確認されれば（ステップS1117）機器に設定を行う（ステップS1118）。

【0038】

設定が間違っていた場合は、設定の訂正を促し（ステップS1119）訂正後（ステップS1120）ステップS1113へ戻る。ここで、上記音声メッセージでの確認は、パネル部（図2：205）に文字や記号を表示して行ってもよい。

【0039】

図9のように原稿中に複数の設定用紙を含めてセットした場合、設定用紙901以降の原稿903については設定用紙901にて設定した設定、設定用紙902以降の原稿904については設定用紙902にて設定した設定となる。例えば設定用紙901で「片面>片面コピー」を設定し、設定用紙902で「片面>両面コピー」を設定した場合は、原稿903については「片面>片面コピー」、原稿904については「片面>両面コピー」となる。

【0040】

上記のように原稿の途中で設定が変わる際にも、設定を音声で読み上げる、パネル部（図2：205）に表示する等の手段をとることにより、ユーザにとってわかりやすいインターフェースを実現することができる。

【0041】

【第3の実施形態】

続いて、本発明の第3の実施形態に係る画像処理装置について説明する。前述の第1の実施形態、第2の実施形態では複写機を例に示したが、ファクシミリやメールにて原稿を送信する際の装置の設定についても同様に行うことが可能である。ファクシミリの宛先や電子メール送信先アドレスを、装置に備わったボタンで設定するのではなく、あらかじめ設定用紙に記入しておくことで設定を簡単に行うことができる。

【0042】

【第4の実施形態】

続いて、本発明の第4の実施形態に係る画像処理装置について説明する。前述の第1の実施形態、第2の実施形態において装置に設定した設定情報をデータテーブル（図7）から読み出し、プリンタ102で印刷することも可能である。

【0043】

例えばコピーした原稿の最後に図12のように設定結果用紙1201を印刷する。このとき、コピーした時刻も併せて印刷してもよい。また、この設定を再利用できるように特定の設定用紙に出力してもよい。このようにすることで、その原稿をいつ、どのような設定でコピーしたかを把握することができる。

【0044】

また他の人から頼まれた場合に、頼んだ本人が設定を把握・確認することができる。上記の設定内容は印刷するだけでなく、電子メールやファクシミリで送信、あるいはネットワーク越しにコンピュータへ通知することも可能である。

【0045】

【第5の実施形態】

続いて、本発明の第5の実施形態に係る画像処理装置について説明する。前述の第1の実施形態、第2の実施形態における設定内容の訂正・補充を行う手段については、パネル部（図2：205）に表示したGUI画面やボタン操作によって行う手段のほか、音声認識技術を用いることも可能である。

【0046】

例えば図13に示すように、マイク等の音声入力部1301と、入力された音声のアナログ信号をデジタル信号に変換する公知のA/D変換器1302と、入力された音声を認識する音声認識部1303、音声を解析する音声処理部1304を設ける。

【0047】

音声認識部1303と音声処理部1304については、特開平7-219591号公報で開示されているような音声処理装置等、公知の方法を用いる。このことにより、音声対話での訂正が可能になるため、視覚に障害をもつユーザでも容易に設定の補正を行うことが可能になる。

【0048】

【第6の実施形態】

続いて、本発明の第6の実施形態に係る画像処理装置について説明する。前述の第1の実施形態、第2の実施形態では設定用紙には機器の設定を記入したが、

その他の付加情報を記入することも可能である。

【0049】

例えば、図14のように、設定用紙1401に付加情報1402として名前や宛先、日付等の任意の文章や画像を記入し、複写機にてコピーする際にその文や記号・画像も併せて印刷する。付加情報については、設定用の情報と同様にスキヤナ103で読み取り、記憶する。

【0050】

原稿（図15：501）をプリンタ102で出力する際に上記の情報を読み込み、合成して印刷する（図15：502）。上記情報の合成・印刷については、特開平08-102844号公報で開示されているような指示される領域に所望の差込み情報を合成しながら出力する方法等、公知の技術を用いる。

【0051】

【第7の実施形態】

続いて、本発明の第7の実施形態に係る画像処理装置について説明する。第1の実施形態、第2の実施形態では、装置設定用の原稿であるかどうかの判別に、OCR110にて認識した結果の文字・記号・枠の位置や大きさから、所定フォーマットであるかどうかを判別する方法を用いたが、電子透かしや2次元バーコードを用いてもよい。

【0052】

電子透かしを用いる場合、装置設定を目的としているという情報が透かしデータとして埋め込まれた用紙に、ユーザが設定を記入する。複写機の場合は、あるトレイにその透かしデータが埋め込まれた用紙をストックしておき、設定用紙自体をコピーする場合はその用紙を用いて印刷する。2次元バーコードの場合も同様である。

【0053】

【他の実施形態】

なお、本発明は、複数の機器（例えばホストコンピュータ、インターフェイス機器、リーダ、プリンタなど）から構成されるシステムに適用しても、一つの機器からなる装置（例えば、複写機、ファクシミリ装置など）に適用してもよい。

【0054】

また、本発明の目的は、前述した実施形態の機能を実現するソフトウェアのプログラムコードを記録した記憶媒体を、システムあるいは装置に供給し、そのシステムあるいは装置のコンピュータ（またはCPUやMPU）が記憶媒体に格納されたプログラムコードを読み出し実行することによっても、達成されることは言うまでもない。

【0055】

この場合、記憶媒体から読み出されたプログラムコード自体が前述した実施形態の機能を実現することになり、そのプログラムコードを記憶した記憶媒体は本発明を構成することになる。

【0056】

プログラムコードを供給するための記憶媒体としては、例えば、フロッピ（登録商標）ディスク、ハードディスク、光ディスク、光磁気ディスク、CD-ROM、CD-R、磁気テープ、不揮発性のメモリカード、ROMなどを用いることができる。

【0057】

また、コンピュータが読み出したプログラムコードを実行することにより、前述した実施形態の機能が実現されるだけでなく、そのプログラムコードの指示に基づき、コンピュータ上で稼働しているOS（オペレーティングシステム）などが実際の処理の一部または全部を行い、その処理によって前述した実施形態の機能が実現される場合も含まれることは言うまでもない。

【0058】

さらに、記憶媒体から読み出されたプログラムコードが、コンピュータに挿入された機能拡張ボードやコンピュータに接続された機能拡張ユニットに備わるメモリに書き込まれた後、そのプログラムコードの指示に基づき、その機能拡張ボードや機能拡張ユニットに備わるCPUなどが実際の処理の一部または全部を行い、その処理によって前述した実施形態の機能が実現される場合も含まれることは言うまでもない。

【0059】

なお、本発明に係る実施態様の例を以下に列挙する。

【0060】

[実施態様1] 原稿画像を読み取り、設定情報に従って該原稿画像を処理することが可能な画像処理装置における画像処理方法であつて、
読み取られた原稿画像が、設定情報を記載した原稿であるか否かを、予め登録されたフォーマットに基づいて識別する識別工程と、
読み取られた原稿画像が、設定情報を記載した原稿であると識別した場合、該読み取られた原稿画像に記載された設定情報を設定する設定工程と
を備えることを特徴とする画像処理方法。

【0061】

[実施態様2] 前記識別工程は、
前記読み取られた原稿画像の所定の位置に付された情報に基づいて、設定情報を記載した原稿であるか否かを識別することを特徴とする実施態様1に記載の画像処理方法。

【0062】

[実施態様3] 前記識別工程は、
前記読み取られた原稿画像に附加された電子透かしの情報に基づいて、設定情報を記載した原稿であるか否かを識別することを特徴とする実施態様1に記載の画像処理方法。

【0063】

[実施態様4] 前記識別工程は、
前記読み取られた原稿画像に附加された2次元バーコードの情報に基づいて、設定情報を記載した原稿であるか否かを識別することを特徴とする実施態様1に記載の画像処理方法。

【0064】

[実施態様5] 読み取られた原稿画像を送信する画像送信工程を更に備え
前記画像送信工程は、前記設定情報のうち、読み取られた原稿画像を送信するための宛先についての情報に従って、該読み取られた原稿画像を送信することを

特徴とする実施態様 1 に記載の画像処理方法。

【0065】

[実施態様 6] 電子メールを送信するメール送信工程を更に備え、

前記メール送信工程は、前記設定情報のうち、電子メール送信先アドレスについての情報に従って、電子メールを送信することを特徴とする実施態様 1 に記載の画像処理方法。

【0066】

[実施態様 7] 前記設定情報を表示する表示工程を更に備えることを特徴とする実施態様 1 に記載の画像処理方法。

【0067】

[実施態様 8] 前記表示工程は、前記読み取られた原稿画像に記載された設定情報に不備がある場合に、該不備のある設定項目を表示することを特徴とする実施態様 7 に記載の画像処理方法。

【0068】

[実施態様 9] 前記設定情報を音声出力する音声出力工程を更に備えることを特徴とする実施態様 1 に記載の画像処理方法。

【0069】

[実施態様 10] 前記音声出力工程は、前記読み取られた原稿画像に記載された設定情報に不備がある場合に、該不備のある設定項目を音声出力することを特徴とする実施態様 9 に記載の画像処理方法。

【0070】

[実施態様 11] 前記設定情報を補正する補正工程を更に備えることを特徴とする実施態様 1 に記載の画像処理方法。

【0071】

[実施態様 12] 前記補正工程は、認識した音声入力に基づいて前記設定情報を補正することを特徴とする実施態様 11 に記載の画像処理方法。

【0072】

[実施態様 13] 読み取られた原稿画像を合成する画像合成工程を更に備え、

前記画像合成工程は、前記設定情報に記載された、合成のための画像を用いて、画像合成を行うことを特徴とする実施態様1に記載の画像処理方法。

【0073】

[実施態様14] 前記原稿画像を処理するために用いた設定情報を、該原稿画像の処理後に印刷出力する印刷出力工程を更に備えることを特徴とする実施態様1に記載の画像処理方法。

【0074】

[実施態様15] 前記原稿画像を処理するために用いた設定情報を、過去1回または複数回にわたって記憶しておくことを特徴とする実施態様1に記載の画像処理方法。

【0075】

[実施態様16] 前記読み取られた原稿画像に記載された設定情報に基づいて、前記過去の設定情報を選択することを特徴とする実施態様1に記載の画像処理方法。

【0076】

[実施態様17] 前記選択された過去の設定情報を読み出し、該設定情報と前記読み取られた原稿画像に記載された設定情報とを用いて、新たな設定情報を生成することを特徴とする実施態様1に記載の画像処理方法。

【0077】

[実施態様18] 原稿画像を読み取り、設定情報に従って該原稿画像を処理することが可能な画像処理装置であって、

読み取られた原稿画像が、設定情報を記載した原稿であるか否かを、予め登録されたフォーマットに基づいて識別する識別手段と、

読み取られた原稿画像が、設定情報を記載した原稿であると識別した場合、該読み取られた原稿画像に記載された設定情報を設定する設定手段とを備えることを特徴とする画像処理装置。

【0078】

[実施態様19] 実施態様1乃至17のいずれか1つに記載の画像処理方法をコンピュータによって実現させるための制御プログラム。

【0079】**【発明の効果】**

以上説明したように本発明によれば、画像処理装置における装置設定の利便性が向上する。

【図面の簡単な説明】**【図1】**

本発明の各実施形態にかかる画像処理装置の構成を示すブロック図である。

【図2】

本発明の各実施形態にかかる画像処理装置のC P Uボードの構成を示すブロック図である。

【図3】

本発明の第1の実施形態にかかる画像処理装置にて用いる設定用紙の例を示す図である。

【図4】

本発明の第1の実施形態にかかる画像処理装置にて用いる設定用紙の記入例を示す図である。

【図5】

本発明の第1の実施形態にかかる画像処理装置にて用いる設定用紙の記入例を示す図である。

【図6】

本発明の第1の実施形態にかかる画像処理装置にて用いる設定用紙の記入例を示す図である。

【図7】

本発明の第1の実施形態にかかる画像処理装置におけるデータテーブルを示す図である。

【図8】

本発明の第1の実施形態にかかる画像処理装置にて処理される設定用紙の配列の一例を示す図である。

【図9】

本発明の第1の実施形態にかかる画像処理装置にて処理される設定用紙の配列の一例を示す図である。

【図10】

本発明の第1の実施形態にかかる画像処理装置の動作を示すフローチャートである。

【図11】

本発明の第2の実施形態にかかる画像処理装置の動作を示すフローチャートである。

【図12】

本発明の第4の実施形態にかかる画像処理装置の動作結果を示す図である。

【図13】

本発明の第5の実施形態にかかる画像処理装置の構成を示すブロック図である。

【図14】

本発明の第6の実施形態にかかる画像処理装置にて用いる設定用紙の記入例を示す図である。

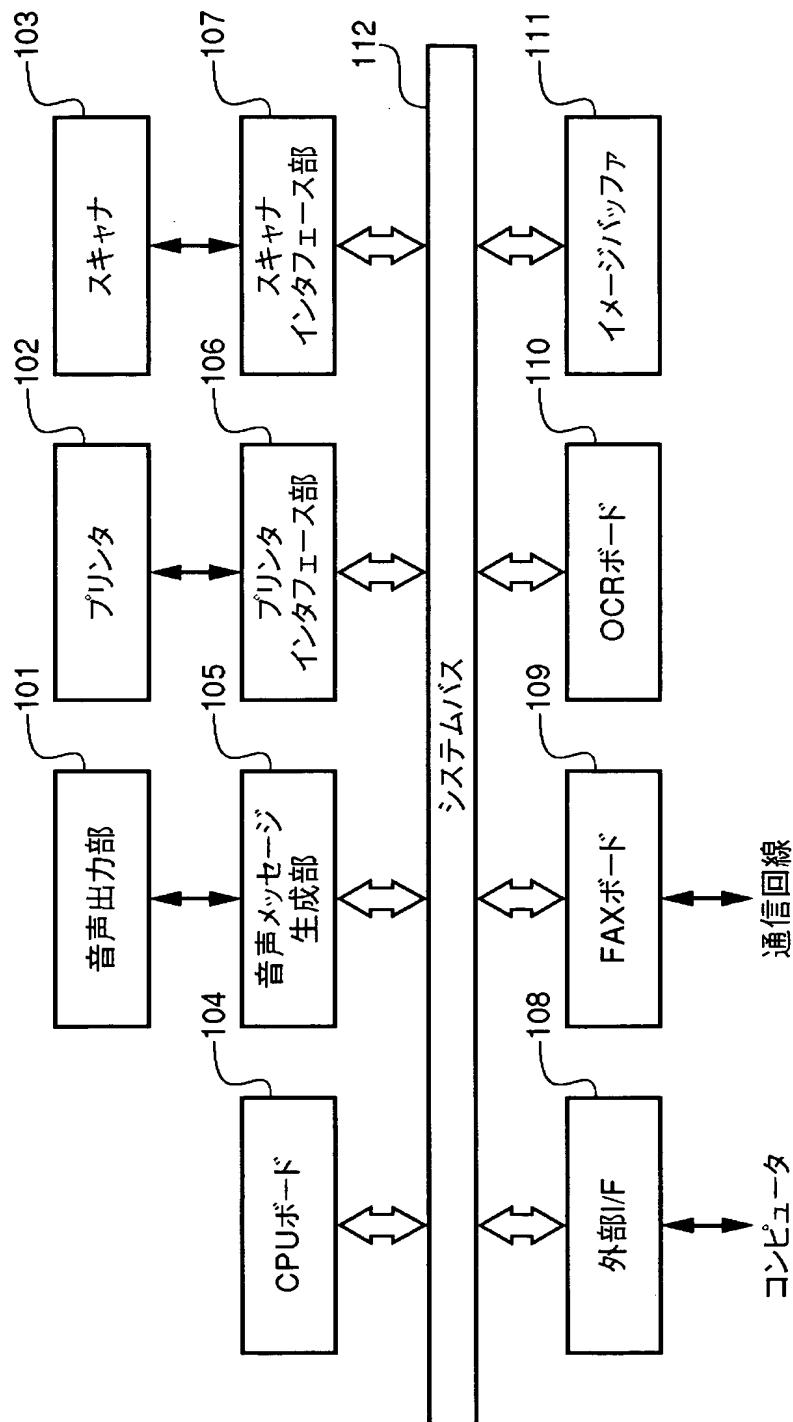
【図15】

本発明の第6の実施形態にかかる画像処理装置の動作結果を示す図である。

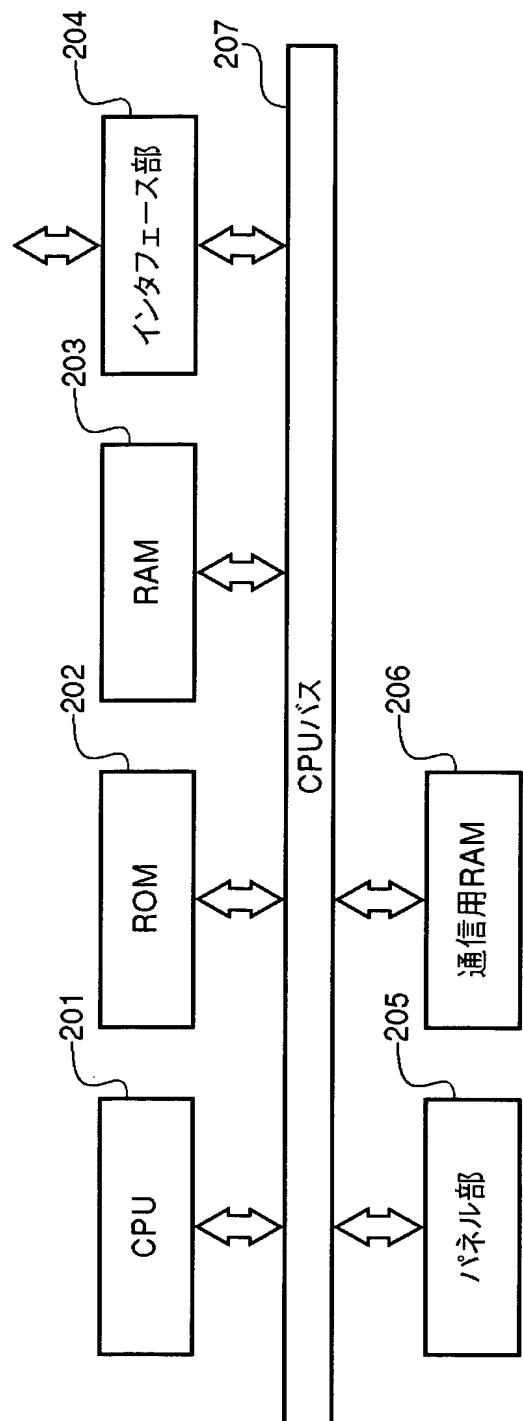
【書類名】

図面

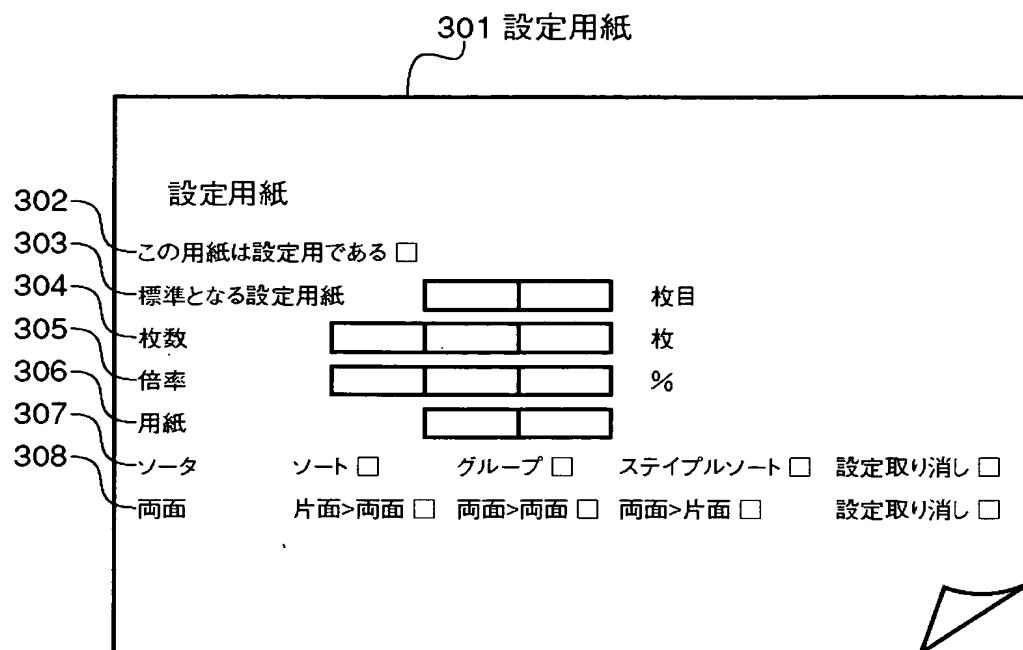
【図 1】



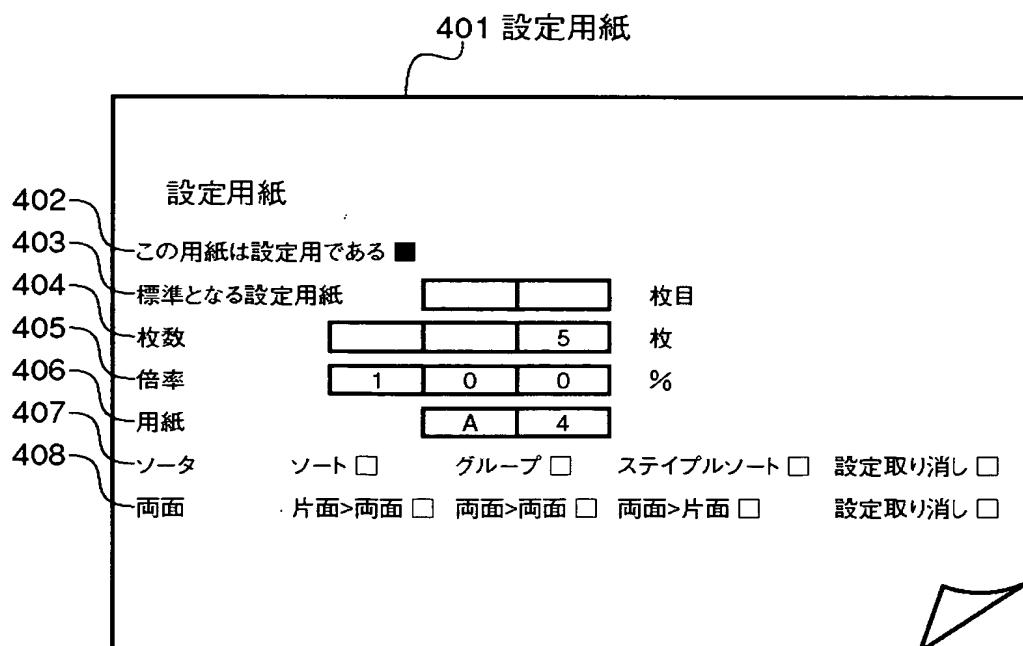
【図2】



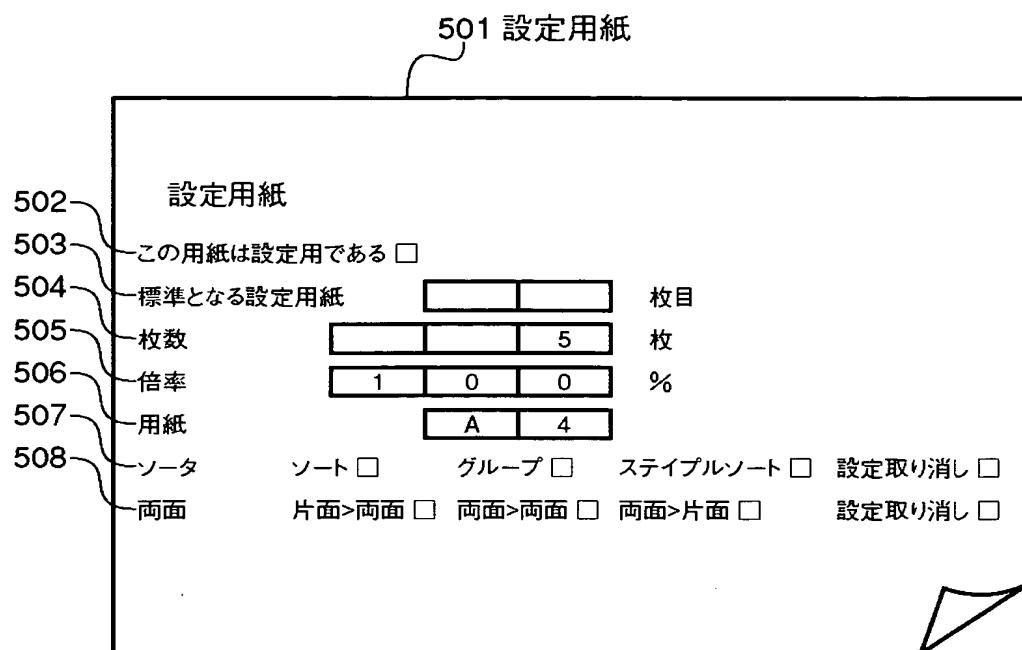
【図3】



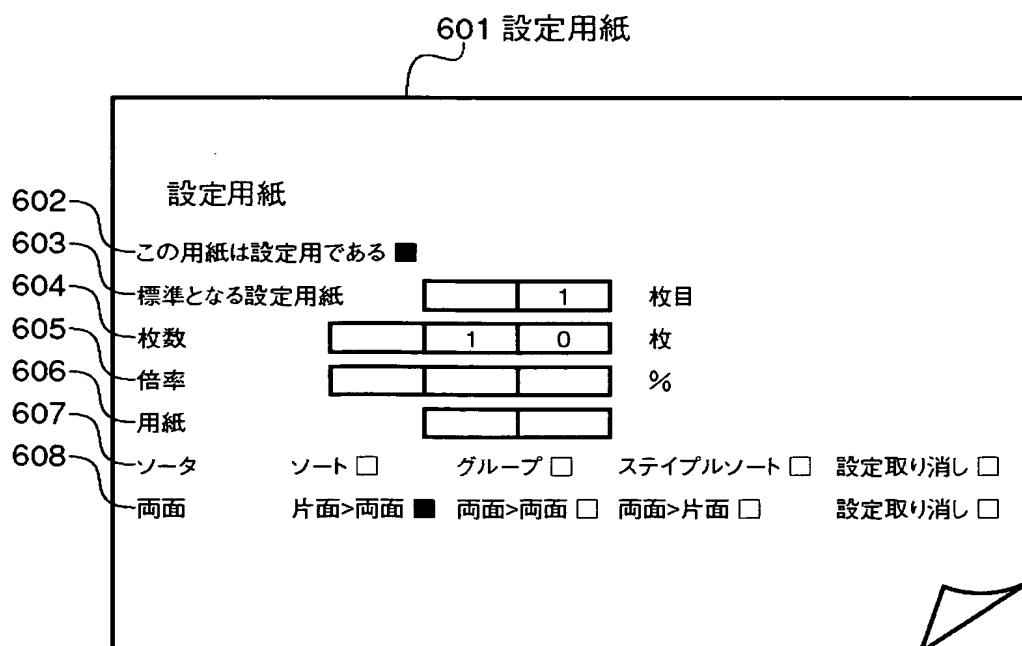
【図4】



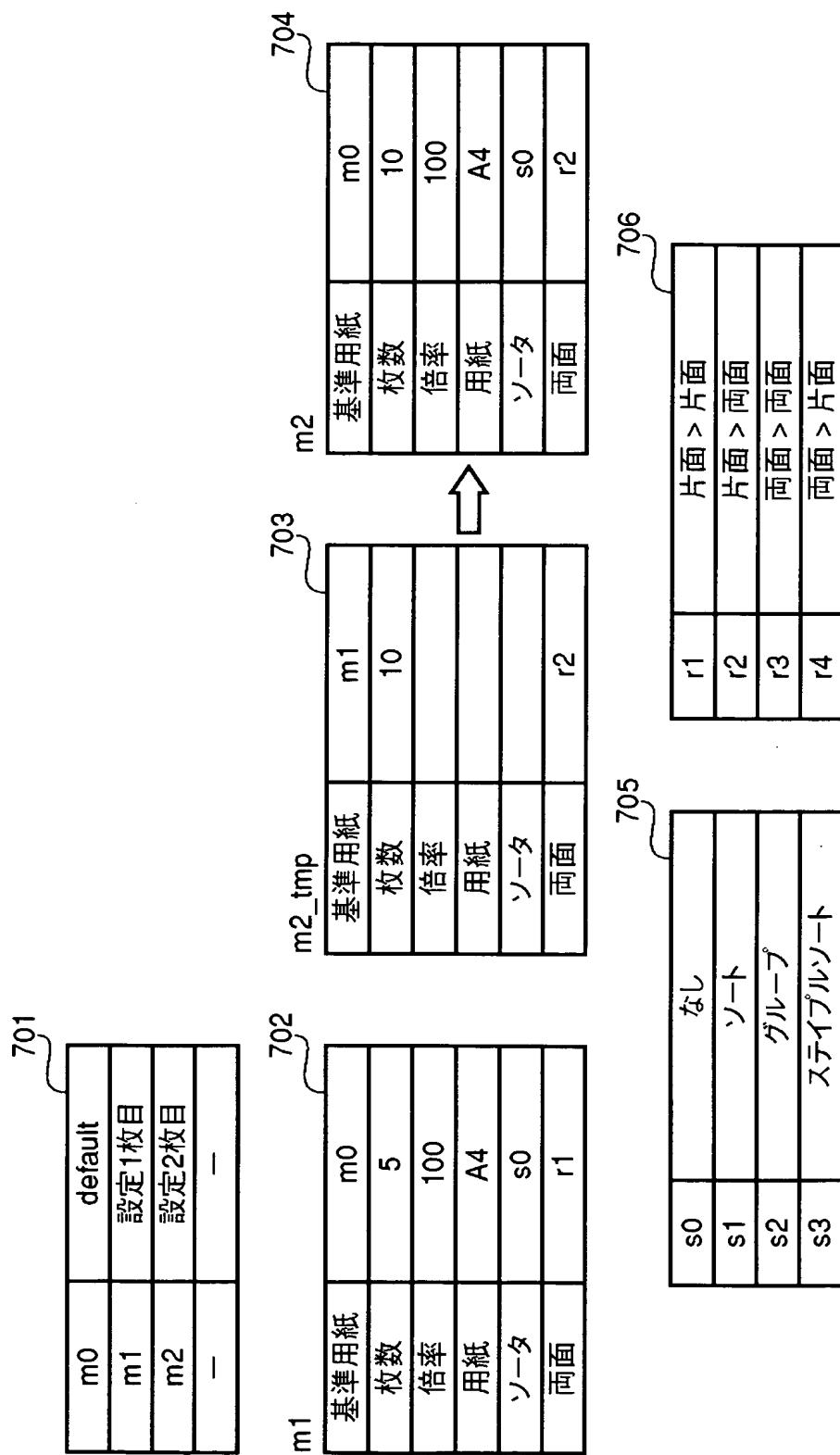
【図 5】



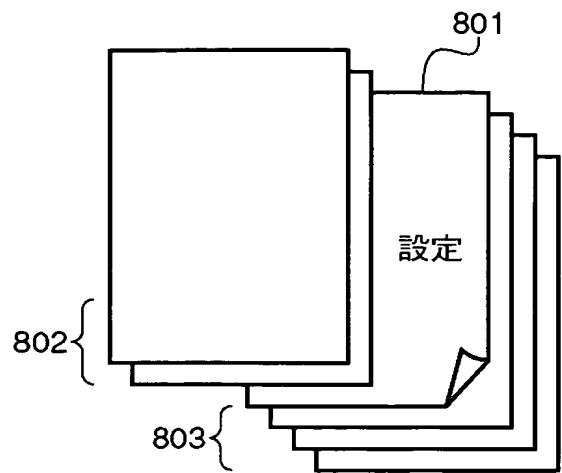
【図 6】



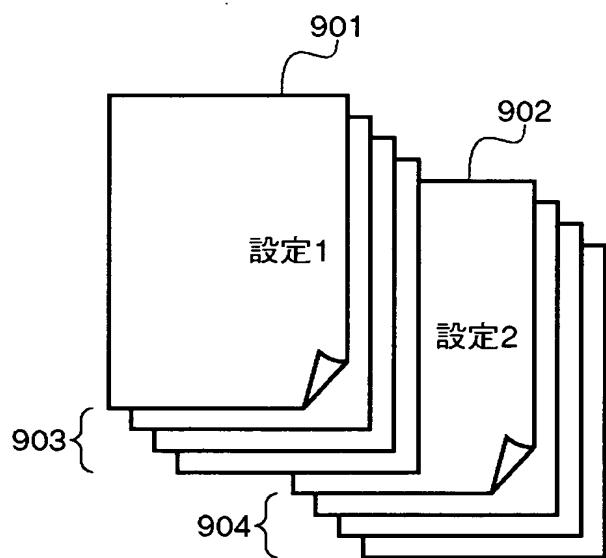
【図 7】



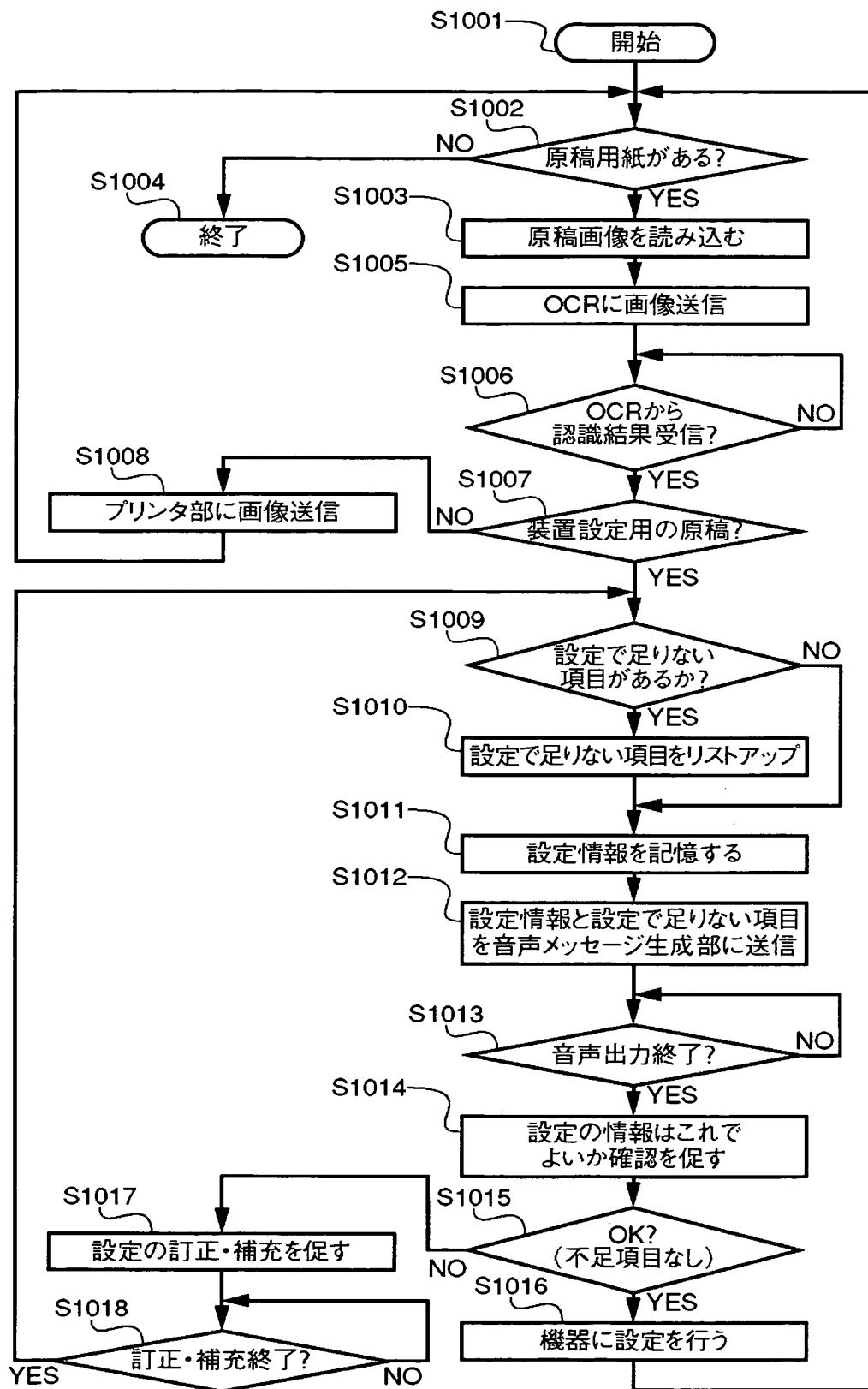
【図8】



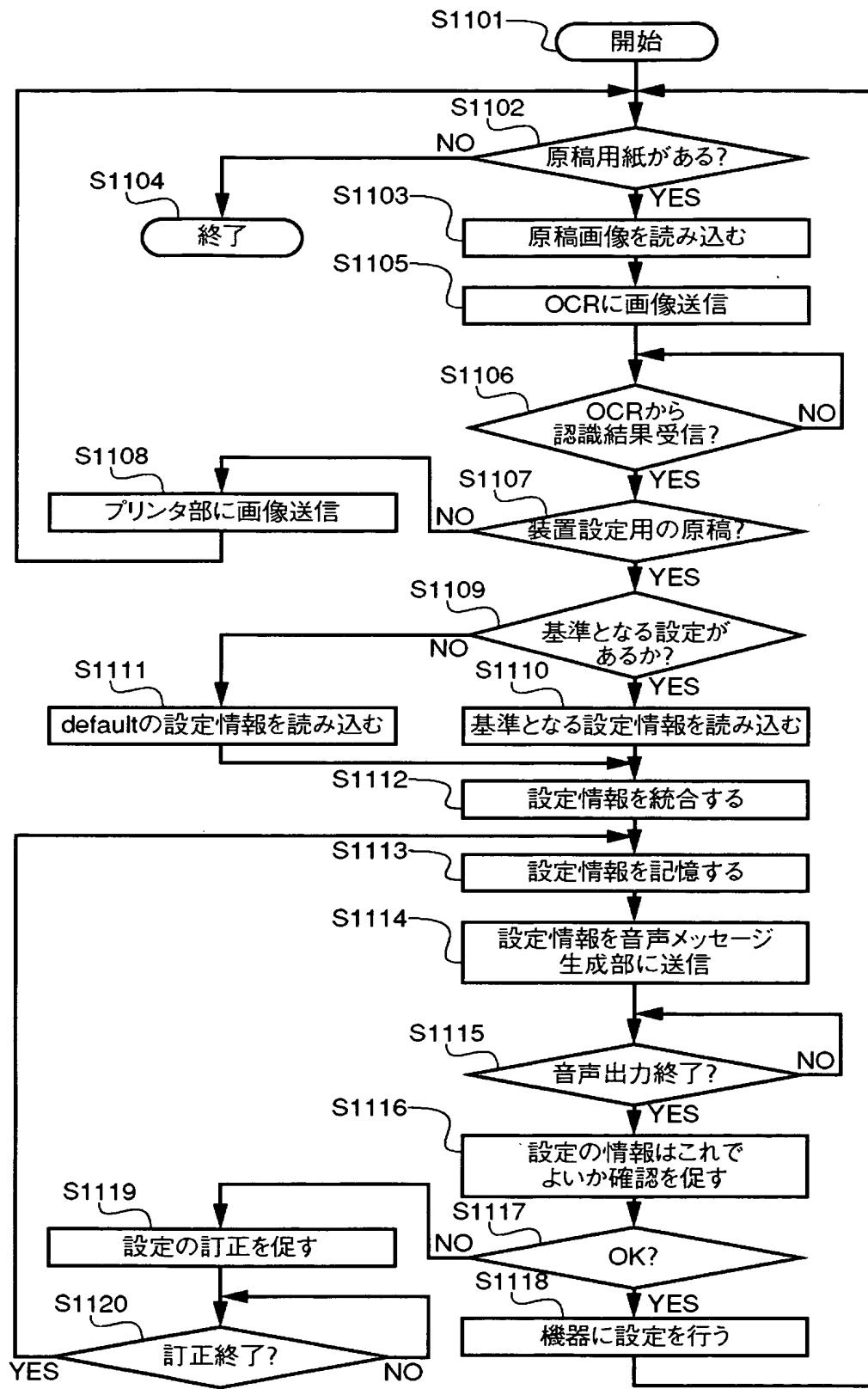
【図9】



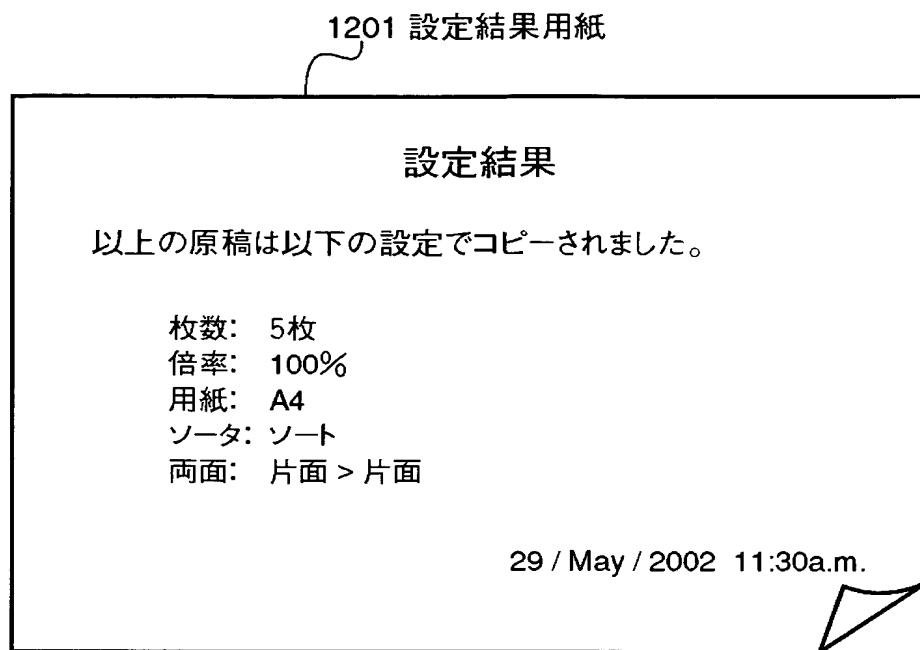
【図10】



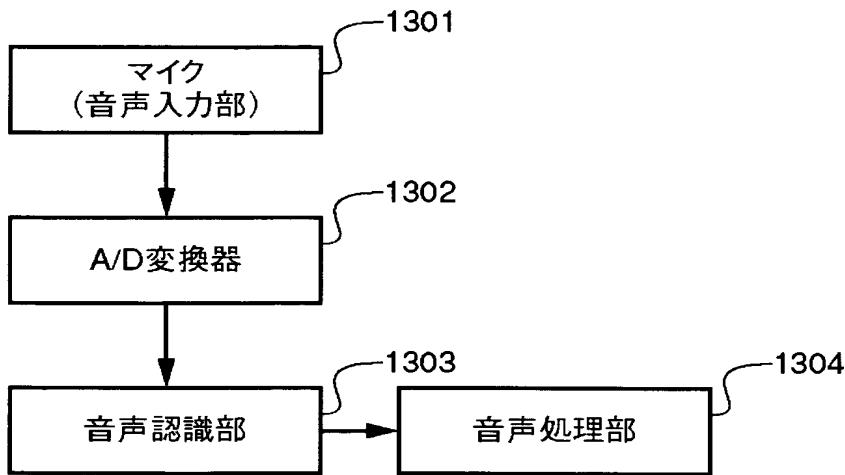
【図11】



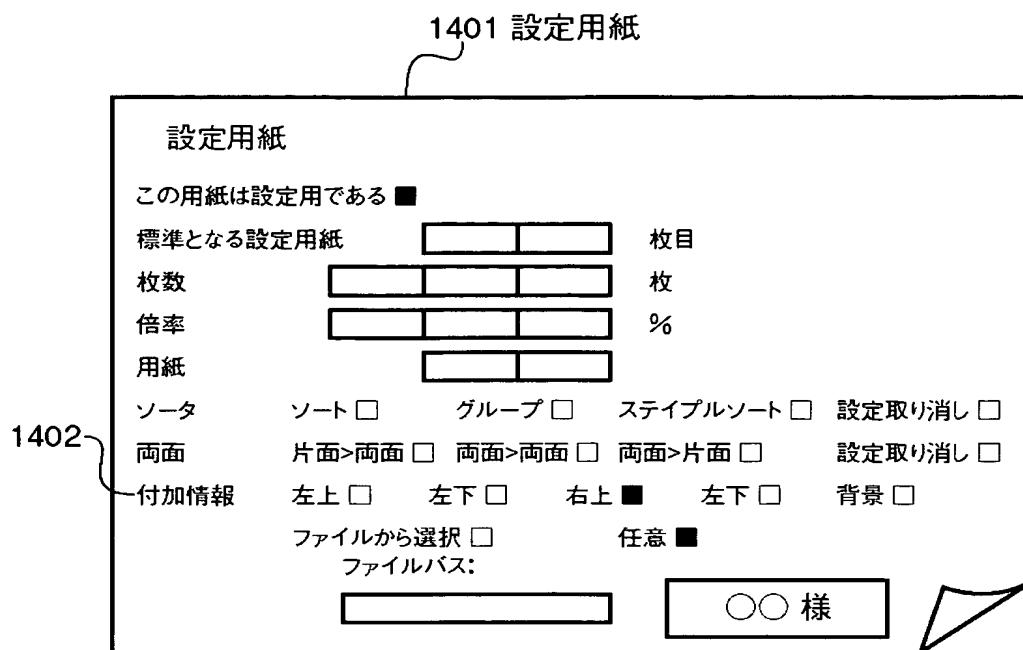
【図12】



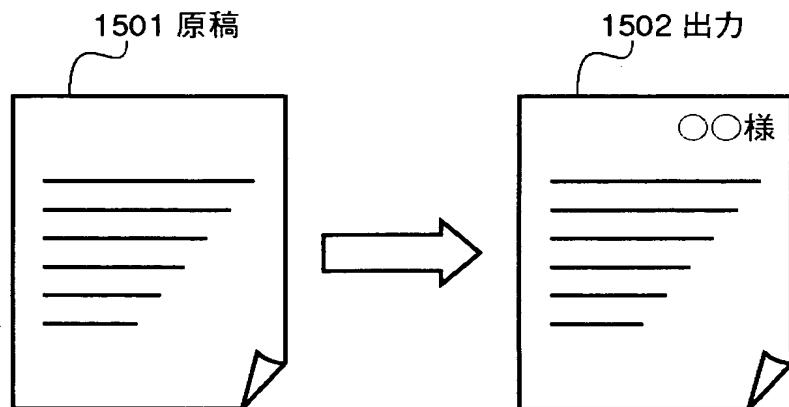
【図13】



【図14】



【図15】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 画像処理装置における装置設定の利便性を向上させることを目的とする。

【解決手段】 原稿画像を読み取り、設定情報に従って該原稿画像を処理することが可能な画像処理装置であって、該画像処理装置は、読み取られた原稿画像が、設定情報を記載した原稿であるか否かを、予め登録されたフォーマットに基づいて識別する識別工程（ステップS1007）と、読み取られた原稿画像が、設定情報を記載した原稿であると識別した場合、該読み取られた原稿画像に記載された設定情報を設定する設定工程（ステップS1016）とを実行することを特徴とする。

【選択図】 図10

特願2002-341259

出願人履歴情報

識別番号 [000001007]

1. 変更年月日 1990年 8月30日
[変更理由] 新規登録
住所 東京都大田区下丸子3丁目30番2号
氏名 キヤノン株式会社